

國學院大學 神道文化学部主催

令和六年度

観月祭

プライバシー保護のため、舞台外での
出演者の許可のない撮影はご遠慮ください。

次第

観月祭奉告祭

管絃

太食調 音取

合歡塩

長慶子

祭祀舞

朝日舞

浦安の舞

舞樂

振鉦

左方 賀殿急

右方 仁和楽

参加団体紹介

○青葉雅楽会

青葉雅楽会は笙・篳篥・龍笛を中心に活動する雅楽専門サークルです。毎週お稽古を行い、行事や神社の祭典で演奏しております。

○神楽舞サークルみずゞ会

みずゞ会は、御神前で奉納する神楽舞を習得し、日々のお稽古を通じて心身の向上と神楽舞の伝統継承を目的とするサークルです。

○瑞玉會

瑞玉會は祭式作法や雅楽・舞・衣紋などの実践的な技術・作法の習得を目指し日々お稽古し、大学神殿でもご奉仕いたしております。

ご挨拶

國學院大學神道文化学部主催「観月祭」にお集まりいただき、ありがとうございます。

観月祭は平成二十二年から始まり、今回で十四回目数を数えます。

この間、世の中ではさまざまな出来事があり、大きな災厄も度々経験してきました。今年に入っても、年初の能登半島地震は申すまでもなく、夏には台風・豪雨が各地で大きな被害をもたらしました。あらためて、犠牲になられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

そのような中であっても、神道文化を学び、その成果を発信したいという意志をもつ学生たちが稽古にいそしみ、その成果を披露してきたことが、観月祭の歴史になっています。

闇夜を照らす月を見やりつつ、次代を担う学生たちの思いの込められた管絃、神楽舞、舞楽をご堪能いただければ幸いです。

小野雅楽会会長の小野貴嗣先生をはじめとする講師の先生方のご指導に感謝申し上げます。

國學院大學神道文化学部長 黒崎浩行

○萌黄會

萌黄會は、神社等で用いられる装束の着付けを日々お稽古すると共に、神社有識故実を研究し、知識と技術を養う活動を行っております。

○禮法研究會

禮法研究會は、神社祭祀における祭式の稽古を行うことを基本とし、祭式の向上、神道的精神の追及を目的として活動しています。

○若木睦

若木睦は、若木祭神輿渡御・各地の祭礼に参加することで日本文化・神道文化をより深く学ぶことを目標に日々活動しております。

【指導】

総合指導

小野貴嗣 講師

笙指導

岡久美子 講師

箏指導

春木光徳 講師

龍笛指導

木原良二 講師

祭祀舞指導

御田村洋子 講師

舞楽指導（左舞）

佐藤健三 講師

舞楽指導（右舞）

小野亮貴 講師

演目解説

【管絃】

○太食調 音取

「音取(ねとり)」は、管絃の合奏の前に楽器の音律を整える為に奏する短い曲で、各楽器の音頭(首席奏者)が奏します。

中国から伝来した「唐楽」には六つの調子があります。本日演奏される管絃の曲目は太食調に属しますので、太食調音取を奏します。

○合歓塩

雅楽の中曲であり、太食調に存在します。

管絃で奏されるときは「合歓塩」の名で、舞楽として奏されるときは「太平楽」の急の章に用いられます。

古い記録によれば、合歓の楽は五音がよく整い、歓声の音が備わっている。この名があるといわれています。

統括補助

大道晴香 准教授

小濱歩 准教授

山口祐樹 助教

学内事務

小柳圭子 資料室員

岡澤智子 資料室員

郡場容子 資料室員

小野裕徳 祭式教材管理者

献花指導

長谷川伸子 祭式教材管理者

協力

小野雅楽会

院友神職会

神道研修事務課

奉納

窠幕 埼玉県院友神職会

○長慶子

唐楽の小曲であり、合歓塩と同様に太食調に存在します。

平安時代中期に横笛や琵琶の名手として活躍した源博雅が作ったといわれています。

古くから舞楽会が終わって参集者が退場する音楽「退出音声(まかでおんじょう)」として用いられ、現在でも舞楽会の締めくくりの曲として演奏されています。

舞はなく、管絃のみで演奏されます。

【祭祀舞】

○浦安の舞

昭和天皇御製 多忠朝作曲・作舞

天地（あめつち）の 神にぞ祈る

朝なぎの 海のごとくに 波たたぬ世を

浦安の舞は、昭和十五年に、神武天皇即位紀元（皇紀）二千六百年を奉祝して作られました。世の中が平和で乱れないことを願い、心も波風立たぬ穏やかな気持ちで人々が平穏無事に過ごせるように、という昭和天皇御製に作曲・作舞したものです。

【舞楽】

○振鉦

舞楽会のはじめに舞台を清める御祓いの意味をもっています。龍笛と太鼓、鉦鼓のみにより舞い、今回は左方の舞人一人が鉦を手にして舞台上より、鉦を振りまわして舞台を清めます。横笛音頭による小乱声、次に新楽乱声が奏され、笛の音頭につづき助管が付けると舞人が登台して舞い始めます。

○賀殿急

左方の舞楽である唐楽で、壺越調の楽曲です。承和年間に遣唐判官の藤原貞敏が琵琶の譜によってこの曲をわが国に持って帰り、その琵琶の譜から和邇部太田麿が笛の譜を作り、林真倉が舞を作ったとされています。また、題名に因んで新築落成などの慶事でよく奏されます。

①壺越調調子につづいて、②笛音取、次に③迦陵頻急で舞人が登台して出手を舞い、立ち定まるときに吹止句を奏します。④当曲を二返奏し、⑤重吹（急の曲を奏する）で入手を舞い、舞人が退きます。

○朝日舞

明治天皇御製 東儀和太朗作曲・作舞

さしのぼる 朝日のごとくさはやかに

持たまほしきは 心なり

目に見えぬ 神に向かひて 恥ざるは

人の心の まことなり

朝日舞とは、宮司舞とも呼ばれています。歌詞にもある通り、赤々と東の空に昇る朝日のようにさわやかな気持ちと神様に恥じない誠の心を常に持とうという意味が込められています。

○仁和楽

右方の舞楽である高麗楽（こまがく）で、高麗壺越調の楽曲です。光孝天皇の勅令により、百済の貞雄が仁和という年号をとって曲名とし、はじめてわが国で新しく作られた楽曲です。

舞人は当曲が始まってから登台し、出手を舞い、全員が立ち定まってから舞い始めます。舞人は後面向で舞い終わり、管方は舞人が退くを見て吹止句を奏します。

